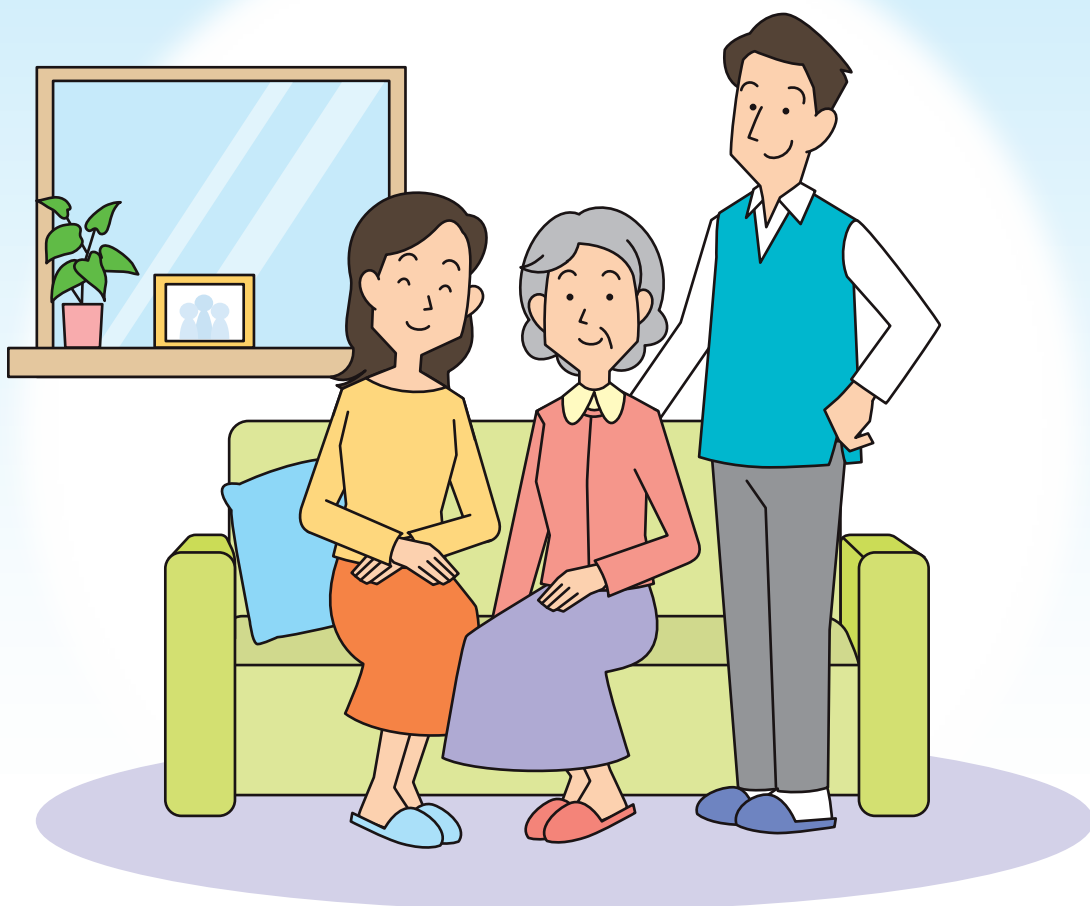


ドネペジル塩酸塩錠・OD錠「明治」を
適正に服用いただくために

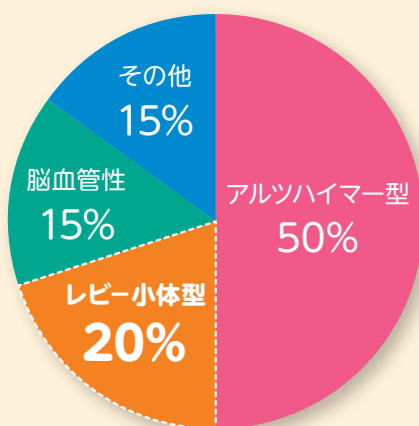
レビー小体型認知症患者さんの ご家族や介護者の皆様へ



レビー小体型認知症とは？

三大認知症の1つといわれています。

レビー小体型認知症は、アルツハイマー型認知症に次いで多いとされる認知症で、脳血管性認知症と併せて「三大認知症」の1つといわれています。英語では「dementia with Lewy bodies」であり、略してDLBと呼ばれます。65歳以上に多く認められますが、40～50歳代にも少なくない病気です。



出典：レビー小体型認知症サポートネットワーク
http://dlbsn.org/what_dlb.html
(2019年1月25日現在)

脳の中に「レビー小体」という物質が現れ、その結果、認知症になります。

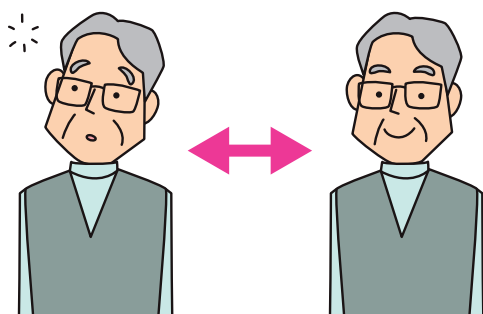
レビー小体型認知症では、「レビー小体」という特殊な円形のタンパク質が脳の大脳皮質に多くみられます。原因の詳細はよく分かっていませんが、このレビー小体が、神経細胞内に蓄積・沈着することにより、レビー小体型認知症になると考えられています。近年、レビー小体の中心成分は、 α シヌクレインというタンパク質であることなどがわかってきています。

認知機能の変動や幻視、睡眠時の異常言動 パーキンソン症状などが特徴的です。



認知機能障害

ものごとが覚えられない、思い出せない(記憶障害)、時間や場所がわからない(見当識障害)、というように理解や判断する力が低下するのが認知機能障害です。レビー小体型認知症の初期から中期には目立たない事も多く、他の症状が先に表れることが少なくありません。



認知機能の変動

日や時間帯によって、頭がはっきりしている状態と、ボーとしている状態が入れ替わり起こります。このような認知の変動も特徴のひとつです。



げんし 幻視や見間違い

幻視とは、実際には見えないものが本人にはありありと見える症状です。見えるものの多くは小動物や人で「ネズミが壁をはい回っている」「知らない人が座っている」など具体的です。丸めてある洋服を動物と見間違えたり、「ネコが冷蔵庫のおかずを取って行った」といった妄想が認められる場合もあります。



パーキンソン症状

動作が遅く少なくなり、動き出すのに時間がかかる、筋肉が固くなる、手足がふるえる、姿勢やバランスがうまく保てず転びやすくなるなどの症状が現れることがあります。顔の表情が乏しくなり、低く単調な話し方になることもあります。



睡眠時の異常行動

睡眠中に悪夢を見て大声で叫んだり、怒ったり、奇声をあげたり、暴れたりすることがあります。レム睡眠中に起こりやすいことから、レム睡眠行動障害ともいいます。レビー小体型認知症の発症前に認められることもあります。

※レム睡眠は身体が寝ているが脳は活動している状態で、夢を見ることが多い。



自律神経症状

血圧、脈拍、血管収縮、体温、および消化管などの内臓の働きを調整する自律神経がうまく働かず、身体的にさまざまな不調をきたす場合があります。具体的には、立ちくらみ、便秘、頻尿、汗がたくさんでる・寝汗、だるさなどがあります。立ちくらみなどにより気を失ったり倒れたりする危険もあります。



抑うつ症状

気分が沈んで悲しくなる、興味や喜びがなくなる、意欲が低下するなどの症状です。抑うつ症状は、レビー小体型認知症の多くの人にみられるといわれています。

ドネペジル塩酸塩錠・OD錠「明治」はどんなお薬？

ドネペジル塩酸塩錠・OD錠「明治」は、レビー小体型認知症でみられる認知機能の障害を改善して、症状が進行するのを遅らせるお薬です。

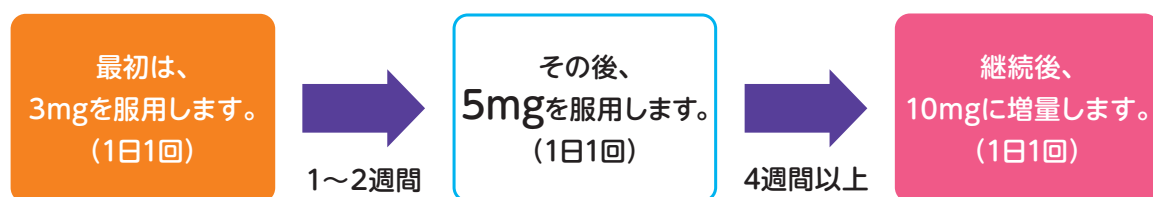
症状が変わらなくても、何も治療しない場合より、症状の進行を遅らせていると考えられます。

また、レビー小体型認知症の認知機能障害に特徴的な“注意力の低下”を改善し、注意力や覚醒の変動等を少なくするといわれています。

ドネペジル塩酸塩錠・OD錠「明治」の服用にあたって

主治医の指示に従って、決められた量を服用してください。

ドネペジル塩酸塩OD錠「明治」(口の中で崩れるタイプの錠剤)やドネペジル塩酸塩錠「明治」の場合、3mg(黄色の錠剤)から開始し、1～2週間後に5mg(白色の錠剤)になります。その後、4週間以上経過後に10mg(ピンク色の錠剤)になります。



- このお薬は1日1回服用してください。
- 飲み忘れても、次の日に2日分を一度に服用しないでください。
- 過量に飲んでしまった場合は直ちに病院へ連絡してください。
- あなたの判断でお薬の服用を中止しないでください。

いつもと違う症状が続く場合は、主治医にご相談ください。

● 軽い吐き気や食欲不振、便が軟らかくなる場合があります。

● パーキンソン症状が悪くなる場合があります。



剤形による注意事項

OD錠

- 口の中で崩れます。少量の水で飲み込んでください。
- お薬の性質上表面が少しザラついている場合があります。



ご家族・介護者の皆様へのアドバイス

食べ物などを飲み込みやすくするために

症状が進行すると飲み込む機能が衰えて、唾液や食べ物が気管に入ってしまうことがあります（誤嚥）。むせて吐き出せるとよいのですが、吐き出せないと、唾液や食べ物に含まれた細菌により肺炎を起こしやすくなります。



- 食事の時は、前かがみの姿勢をとるようにして、ご家族や介護者が見守るようにしましょう。
- 細かく刻む、飲み込みやすいようにトロミをつけるなど、工夫しましょう。
- 口の中を清潔にしましょう。
- 口の中が乾燥しないように、水分を摂ることを心がけましょう。



ご家族・介護者の皆様へのアドバイス

げんし 幻視があらわれたときは

- 「そんなものはいない」など強く否定したり、感情的に接するのは避けましょう。
- 特に怖がっていたり、興奮したりしている場合は、本人の話を十分に聞いてみましょう。
- 落ち着いている場合には、「本当はいないのだけど、見えてしまうのだからしょうがないですね。」「悪さはしないので大丈夫ですよ。」などと伝えてみましょう。
- 幻視は、近づいたり触ったりすると消えることが多いので、「一緒に行って触ってみましょう。」と導くのも良い方法です。
- 室内の照度をできるだけ統一したり、幻視や見まがいを誘発しそうなもの（目立つ色の物、カーペットのシミ、壁の模様）を少なくするなどの工夫をしましょう。

歩行へのサポートのしかた

- 最初の一步が出ない「すくみ足」の場合には、テープなどで一歩先に目印をつけることで改善することがあります。
- 歩行を促すには「いち、に…」と声をかけたり、テンポの良い曲をかけたりするのも有効です。
- 歩行の介助を行う際、正面から手を引っぱるより倒れやすい側に立ち、横からサポートする方が望ましいとされています。

睡眠時の異常行動には

- 精神的に安定した穏やかな生活を目指しましょう。
- 夜はぐっすりと眠れるように日中の活動を促し、規則正しく昼夜のリズムを整えることが大切です。
- 特に朝方は、レム睡眠時間が長いため、異常行動が長引く事があります。部屋を明るくしたり、目覚まし時計などを用いて目覚めを促すこともひとつの方法です。

転倒に注意しましょう！

レビー小体型認知症では、パーキンソン症状によって筋肉や関節が硬くなるとともに姿勢を保ったり、立て直したりする反射機能が低下するため、ちょっとしたものにつまずいたり、転びやすくなったりします。また、起き上がったり立ち上がったりする際に、ふらつきやめまいを起こして、倒れたり、気を失ったりする危険があります。



転倒を防ぐには……

イスからの立ち上がりや階段の上り下りの際は注意が必要です。手すりなどの利用を促し、見守りや声かけをしましょう。



いきなり後ろから声をかけると、振り向きざまにバランスを崩して転んでしまうことがあります。正面から、表情を見ながら声をかけましょう。



転倒は夕方から夜間に起こることが多いため、見守りを多くしましょう

家の中を整えましょう。すべりやすいものやつまずきやすいものは、なくしましょう。

- 玄関マットははずす
- コード類は壁際に沿わせて固定する
- 家具はなるべく凹凸がないように並べる
- 新聞や雑誌など細々したものは床におかない
- 台所や洗面所の床は水で濡れたらその都度ふき取る



本人の服装にも気を配ります。

- ズボンの裾は短めに
- 外出時は、サンダルは避ける
- かばんはリュック
サックなど両手が使えるものに
- 足の巻き爪などは
きちんと手入れして
治しておく

